

おわりに

これからの支援教育はどのようなのか、何が必要になるのか、教員に何が求められるようになるのか、そのことを教員は常に考えています。ただ、新しいことが導入される、それを授業等で扱っていくことへの不安はやはり付きまといまいます。私たちの生活は、買い物や飲食店の注文、交通切符、また財布機能までがタブレット端末やスマートフォンで処理できるようになり、今後も生活において不可欠なものになっていく動きは止まらないでしょう。

この3年間、本校では「授業におけるICTの効果的活用の探求～子どもたちの生きる未来にどのような力が必要かを考えながら実践してみよう～」をテーマに研究に取り組んでまいりました。大切にしてきたのは、児童生徒が生活する未来を見据え、個の実態に応じた活用方法の探求でした。研究にあたっては、機器の操作方法を覚えることから始める教員から、元々授業で活用していた教員までとスタート地点は様々でしたが、お互い補助しあい取組んでまいりました。私自身も研究授業の見学等研究に参加する中で改めて感じたことがありました。それは、児童生徒に生活場面におけるICT機器の操作方法を教えることだけではなく、児童生徒の「探究心」「思考力」「コミュニケーション力」を育むためにICT機器をどのように効果的に活用できるかを考えることが大切であるということでした。

また、本研究は半ばであり、特に児童生徒が活用する面においては今後も継続して取組んでいくことが必要ではありますが、この3年の研究のまとめである紀要が、お読みいただきました皆様にとって今後に向けた何かの参考になりましたら幸いです。

今後も支援教育の発展と児童生徒の成長に寄与できるよう、研究に取り組んでまいります。

引き続き本校の教育活動に対しご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。